

教科「国語」シラバス

1. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 国語	週の授業数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 国語 I	3	中学 第1学年	『国語 I』(光村図書) 『標準漢字演習(5・2級)』(東京法令出版) 『ウイニング 国語 I』 『定期テスト対策 ワーク 国語 I』(光村図書) ※スタディサブリの通年講座から「中1 国語(光村図書 国語)」を視聴すると、教科書に対応した講座を視聴することが可能。
学習の到達目標	①基礎的な漢字や語句の知識を身につける。《知・技》 ②論説文を通して論理的な思考力を養い、本文と関連する主要な抽象概念を理解・習得する。《思・判・表》《知・技》 ③小説や詩歌など文学的な文章表現への理解を深め、親しみをもつ。また、創作活動を通して主体的に文学表現を味わう姿勢を涵養する。《主・多・共》 ④自分の考えを文章化する記述力と、それを相手に伝える表現力を身につける。また、多様な考えを受容する寛容な姿勢を養う。《思・判・表》《主・多・共》		
評価の観点	基礎的な漢字・語句の知識を身につける。特に論説文において用いられる抽象概念を理解し、習得することを目指す《知識・技能》 問いに対して自分の考えを論理的に表現することができるか。自分の考えを他者に表現することができるか。《思考力・判断力・表現力》 積極的に考えようとする姿勢が身についているか。他者の考えを尊重する姿勢が身についているか。他者との意見交換を経て考えを発展させようとする姿勢が身についているか。《主体性・多様性・共同性》		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの…………… 80%
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%
- D：未提出、未実施…………… 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考査 まで	①物語文「はじまりの風」(蜂飼耳) ①説明文「ダイコンは大きな根？」 (稲垣栄洋)	①場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える。 ②説明的な文章における段落が果たす役割を理解する。また、説明をよりわかりやすくし、読者の理解を助けてより興味を持って読むようになされている文章の書き方の工夫を理解する。	〈使用教材〉 『国語Ⅰ』
1 学期 期末 考査 まで	①説明文「ちょっと立ち止まって」 (桑原茂夫) ②説明文「比喩で広がる言葉の世界」 森山卓郎	①説明的な文章の「序論・本論・結論」という段落のまとまりに着目し、要旨を捉える。また、事例が主張に説得力をもたせていることを理解する。 ②文章における比喩の役割と効果を理解する。また、日常生活に比喩の表現が生かされた言葉を見つけて伝え合い、比喩のもつ力を体感する。	〈使用教材〉 『国語Ⅰ』
2 学期 中間 考査 まで	①物語文「大人になれなかった弟たちに…」 (米倉斉加年) ②記録文「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」 (鈴木俊貴)	①戦争文学を通して戦争と当時の状況について理解を深めることをねらいとする。本文に対して自ら問いを立てることによって、当時の状況や心情を論理的に推定する力を養う。また、行動や情景の描写を場面と関連付けて丁寧に読む。 ②自然科学系の文章への興味・関心を深めることをねらいとする。論理的な思考力のプロセスを学び、将来の探究活動や研究活動へと展望を広げる。	〈使用教材〉 『国語Ⅰ』

2 学 期 期 末 考 査 ま で	<p>①物語文「星の花が降るころに」 (安東みきえ)</p> <p>②根拠を明確にして書こう</p> <p>③『空の詩 三編』</p>	<p>①場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える。また、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができるようになる。また、伏線に着目し、文学表現の面白さを体感する。</p> <p>②それまでの常識や固定概念から離れ、身の回りで「不便」であることの良さを感じる例を探すことで、筆者の主張についての理解を深める。また、必要な情報を選び、結びつけて要約する力を養う。</p> <p>③「空」を題材とした三つの詩を通して文学表現に親しむ。また、洗練された言葉によって表現された豊かな解釈の世界を発見・理解するだけでなく、自分で創作することによって興味関心と表現力を涵養する。</p>	<p>〈使用教材〉 『国語Ⅰ』</p>
3 学 期 期 末 考 査 ま で	<p>①物語文「少年の日の思い出」 (ヘルマン・ヘッセ)</p> <p>②話題や展開を捉えて話し合おう</p>	<p>①小説の登場人物の葛藤を通して、「正義」とは何か、「悪」とは何かを深く考えてみる。登場人物の行動を感情的側面や倫理的側面、法的側面から視点を変えて多角的に捉えることにより、思考力・判断力・表現力を涵養する。</p> <p>②話し合いの話題や展開を捉えて的確に話す。相手の発言を正確に理解する。自分の考えをまとめる。</p>	<p>〈使用教材〉 『国語Ⅰ』</p>

【成績評価の概要について】

(1) 学期における評価の対象（国語Ⅱ）

- ① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ③ 授業内の小テスト・提出物や、授業への取り組み姿勢などの平常点：60点（関心・意欲・態度などの評価）

(2) 学期評定の算出方法

- ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。
- ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は40点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。
- ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計400点に対し、平常点合計は100点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。

(3) 年度末評定の算出方法

- ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。
- ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は40点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。
- ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計1000点に対し、平常点合計は250点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。